

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成23年1月調査結果

現在の景気の現状判断は、11月より3.6%ポイント悪化の28.2%ポイントと、前年3月以来の非常に厳しい判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、11月と比べ0.6%ポイント小幅に悪化し37.9%ポイントと厳しい状況が続く判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合も、11月に比べ6.4%ポイント悪化の32.1%ポイントと、さらに厳しさが増す判断となっています。

3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、11月と比べ4.6%ポイント改善して41.7%ポイントと厳しい状況から脱する予想となっています。

◎全体的には、円高に加え、エコポイントの半減等の懸念材料から不安が広がり、消費の低迷や低価格志向に拍車がかかる状況が続いているものと考えられます。

また、雇用については、回復傾向に転じたものと思われれます。

なお、景気は、踊り場入りの状況が続いているものと思われれます。

平成23年2月10日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は1月9日まで)

○有効回答率

86.7% 有効回答客体 39名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 D I 値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒	ほんの少し景気が後退している

となります。

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、11月より3.6%ポイント悪化の28.2%ポイントと、前年3月以来の非常に厳しい判断となっています。

内訳では、家計動向関連の小売関連で1.8%ポイント悪化し23.2%ポイント、飲食観光関連も9.5%ポイント悪化し29.2%ポイント、サービス関連も8.4%ポイント悪化し25.0%ポイントとすべて非常に厳しい判断となっています。

また、雇用関連では、11月より7.1%ポイント改善し39.3%ポイントと、厳しい状況が弱まる判断となっています。

表1 1月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	5.1	28.2	41.0	25.7	0.0	28.2
家計動向関連	0.0	6.3	21.9	40.6	31.2	0.0	25.8
小売関連	0.0	7.1	14.3	42.9	35.7	0.0	23.2
飲食観光関連	0.0	8.3	25.0	41.7	25.0	0.0	29.2
サービス関連	0.0	0.0	33.4	33.3	33.3	0.0	25.0
雇用関連	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	39.3

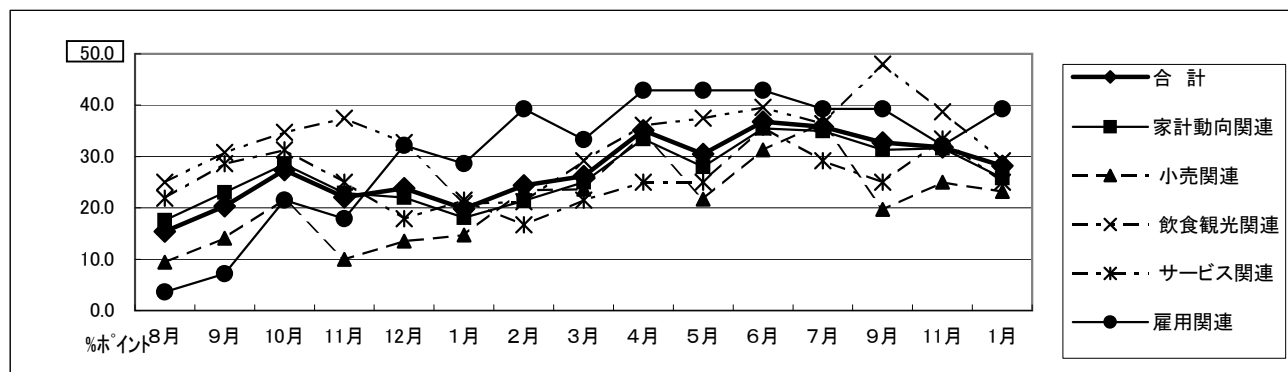
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	5	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
	6	0.0	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	36.8
	7	0.0	10.8	37.9	35.1	16.2	0.0	35.8
	9	5.1	5.1	18.0	59.0	12.8	0.0	32.7
	11	2.7	2.7	32.5	43.2	18.9	0.0	31.8
2011	1	0.0	5.1	28.2	41.0	25.7	0.0	28.2
	(前月差)	(-2.7)	(2.4)	(-4.3)	(-2.2)	(6.8)	(0.0)	(-3.6)

表3 D I 値の推移

	2010年					2011年	
	5月	6月	7月	9月	11月	1月	(前月差)
合計	30.5	36.8	35.8	32.7	31.8	28.2	(-3.6)
家計動向関連	28.0	35.5	35.0	31.3	31.6	25.8	(-5.8)
小売関連	21.7	31.3	36.6	19.7	25.0	23.2	(-1.8)
飲食観光関連	37.5	39.6	36.4	48.0	38.7	29.2	(-9.5)
サービス関連	25.0	35.7	29.2	25.0	33.4	25.0	(-8.4)
雇用関連	42.9	42.9	39.3	39.3	32.2	39.3	(7.1)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、11月と比べ0.6%ポイントと小幅に悪化し37.9%と厳しい状況が続く判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で3.1%ポイントと改善し33.9%、サービス関連も4.2%ポイント改善し33.4%、飲食観光関連は5.6%ポイント悪化し35.4%とすべて厳しい判断となっています。

また、雇用関連は、11月より3.5%ポイント悪化し53.6%と少し下げたものの引続き回復を示す判断となっています。

表1 1月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	18.0	33.3	30.8	17.9	0.0	37.9
家計動向関連	0.0	15.6	28.1	34.4	21.9	0.0	34.4
小売関連	0.0	21.4	14.3	42.9	21.4	0.0	33.9
飲食観光関連	0.0	8.3	41.7	33.3	16.7	0.0	35.4
サービス関連	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	33.4
雇用関連	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0	0.0	53.6

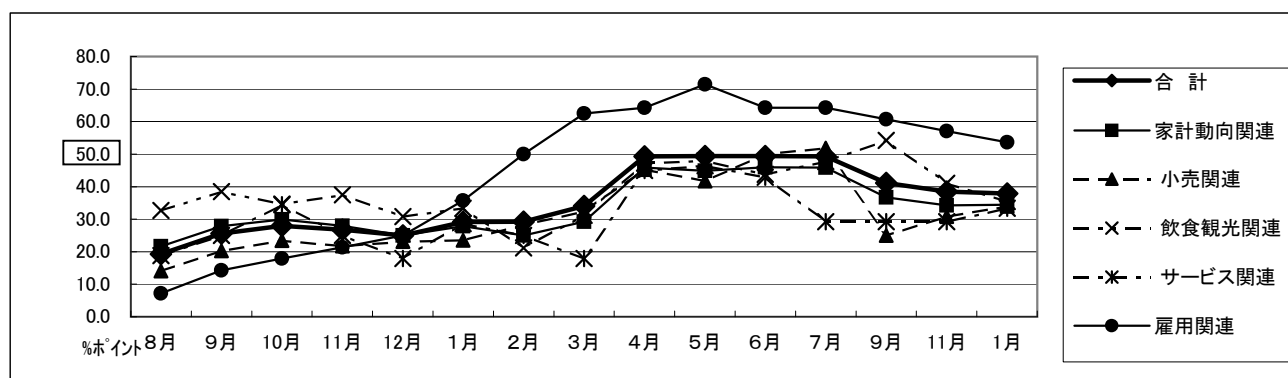
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	5	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
	6	2.6	36.9	26.3	23.7	10.5	0.0	49.4
	7	0.0	35.1	37.9	16.2	10.8	0.0	49.3
	9	7.7	10.3	38.5	25.6	17.9	0.0	41.1
	11	2.7	16.2	27.0	40.5	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	18.0	33.3	30.8	17.9	0.0	37.9
	(前月差)	(-2.7)	(1.8)	(6.3)	(-9.7)	(4.4)	(0.0)	(-0.6)

表3 D I 値の推移

	2010年					2011年	
	5月	6月	7月	9月	11月	1月	(前月差)
合計	49.4	49.4	49.3	41.1	38.5	37.9	(-0.6)
家計動向関連	44.9	46.0	45.9	36.7	34.2	34.4	(0.2)
小売関連	41.7	50.0	51.9	25.0	30.8	33.9	(3.1)
飲食観光関連	47.9	43.8	47.7	54.2	41.0	35.4	(-5.6)
サービス関連	46.4	42.9	29.2	29.2	29.2	33.4	(4.2)
雇用関連	71.4	64.3	64.3	60.7	57.1	53.6	(-3.5)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、11月に比べ6.4%悪化の32.1%と、さらに厳しさが増す判断となっています。

内訳は、小売関連で6.2%悪化し30.4%、飲食観光関連も16.0%と大幅に下げて25.0%、サービス関連も12.5%と大幅に下げて25.0%と非常に厳しい状況に戻る判断となっています。

また、雇用関連は、11月より14.3%と大幅に改善し53.6%と回復傾向に戻る判断となっています。

表1 1月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	5.2	41.0	25.6	25.6	2.6	32.1
家計動向関連	0.0	3.1	34.4	31.3	31.2	0.0	27.4
小売関連	0.0	7.1	28.6	42.9	21.4	0.0	30.4
飲食観光関連	0.0	0.0	41.7	16.6	41.7	0.0	25.0
サービス関連	0.0	0.0	33.4	33.3	33.3	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	53.6

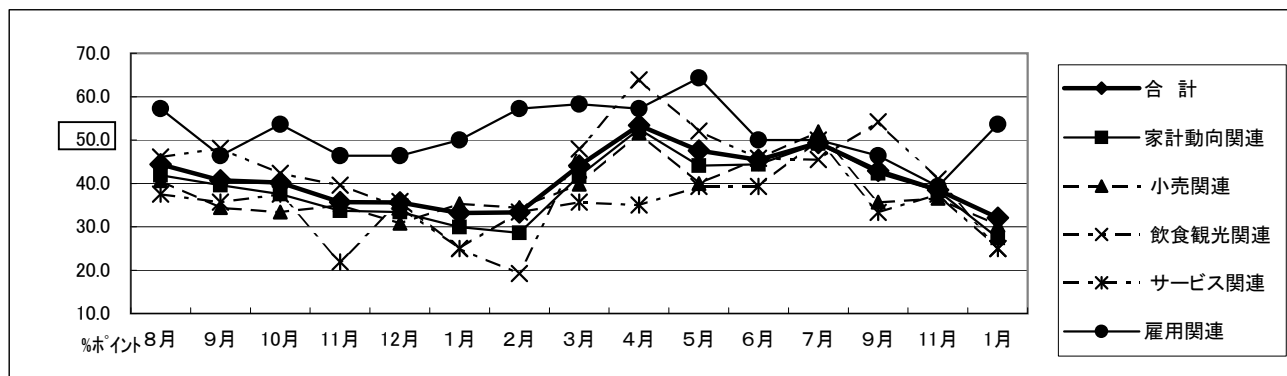
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	5	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
	6	2.6	21.1	44.7	18.4	13.2	0.0	45.4
	7	2.7	13.5	67.6	10.8	5.4	0.0	49.3
	9	5.4	5.4	51.4	29.7	8.1	0.0	42.6
	11	0.0	10.8	45.9	29.7	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	5.2	41.0	25.6	25.6	2.6	32.1
	(前月差)	(0.0)	(-5.6)	(-4.9)	(-4.1)	(12.1)	(2.6)	(-6.4)

表3 D I 値の推移

	2010年					2011年	
	5月	6月	7月	9月	11月	1月	(前月差)
合計	47.6	45.4	49.3	42.9	38.5	32.1	(-6.4)
家計動向関連	44.1	44.4	49.2	42.3	38.3	27.4	(-10.9)
小売関連	40.0	45.8	51.9	35.7	36.6	30.4	(-6.2)
飲食観光関連	52.1	45.8	45.5	54.2	41.0	25.0	(-16.0)
サービス関連	39.3	39.3	50.0	33.3	37.5	25.0	(-12.5)
雇用関連	64.3	50.0	50.0	46.4	39.3	53.6	(14.3)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、販売量の落ち込みや伸び悩みなどから「販売量の動き」が64.3%と多くなっています。

飲食観光関連では、寒波の影響などによる来客数の減少から「来客数の動き」が75.0%と高くなっています。

サービス業関連でも、寒波の影響などによる来客数の減少から「来客数の動き」が66.7%と多くなっています。

次に、雇用関連では、有効求人倍率やパート求人の増加などから「求人数の動き」が71.4%と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	59.4	37.5	25.0	28.1	12.5	0.0
小売関連	42.9	64.3	35.7	21.4	14.3	0.0
飲食観光関連	75.0	16.7	16.7	25.0	8.3	0.0
サービス関連	66.7	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	71.4	28.6	0.0	14.3	28.6	0.0

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、円高に加え、エコポイントの縮小等の懸念材料があるものの11月より4.6%ポイント改善して、41.7%ポイントと厳しい状況から脱する予想となっています。
 内訳は、飲食観光関連で8.9%ポイント改善を見込み52.1%ポイント、サービス関連も12.5%ポイント改善を見込み37.5%ポイント、小売関連は4.4%ポイント悪化を見込み32.2%ポイントと厳しい予想となっています。
 また、雇用関連では、11月に比べ7.1%ポイント上げて46.4%ポイントと厳しい状況を脱する予想となっています。

表1 1月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	5.1	15.4	33.3	28.2	15.4	2.6	41.7
家計動向関連	6.3	15.6	28.1	28.1	18.8	3.1	40.6
小売関連	0.0	7.2	28.6	35.7	21.4	7.1	32.2
飲食観光関連	16.7	33.3	8.3	25.0	16.7	0.0	52.1
サービス関連	0.0	0.0	66.6	16.7	16.7	0.0	37.5
雇用関連	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	46.4

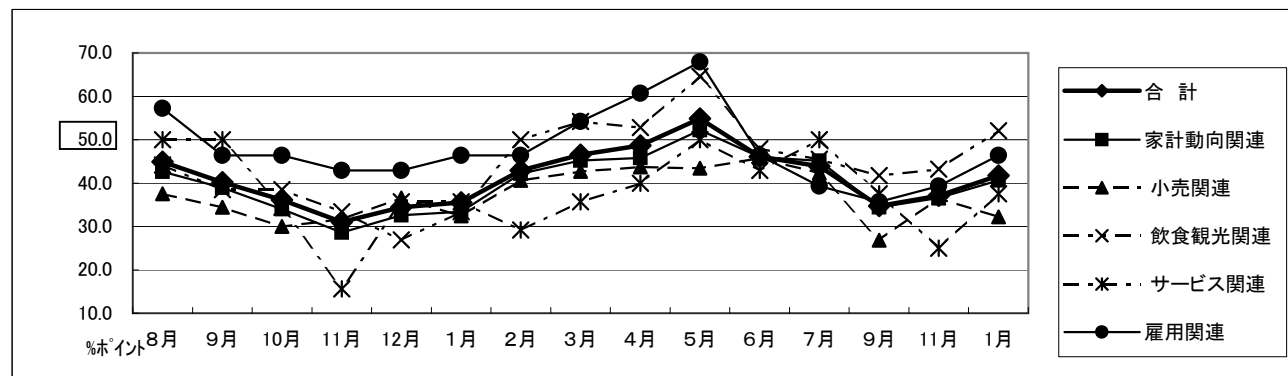
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	5	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
	6	2.6	21.1	44.7	21.1	10.5	0.0	46.1
	7	2.7	13.5	51.4	21.6	10.8	0.0	43.9
	9	0.0	7.7	38.5	38.5	15.3	0.0	34.7
	11	0.0	10.8	40.5	29.7	16.2	2.7	37.1
2011	1	5.1	15.4	33.3	28.2	15.4	2.6	41.7
	(前月差)	(5.1)	(4.6)	(-7.2)	(-1.5)	(-0.8)	(-0.1)	(4.6)

表3 D I 値の推移

	2010年					2011年	
	5月	6月	7月	9月	11月	1月	(前月差)
合計	54.9	46.1	43.9	34.7	37.1	41.7	(4.6)
家計動向関連	52.2	46.0	45.1	34.4	36.6	40.6	(4.0)
小売関連	43.4	45.8	42.3	26.8	36.6	32.2	(-4.4)
飲食観光関連	64.6	47.9	45.5	41.7	43.2	52.1	(8.9)
サービス関連	50.0	42.9	50.0	37.5	25.0	37.5	(12.5)
雇用関連	67.9	46.4	39.3	35.7	39.3	46.4	(7.1)



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている 変わらない	やや良くなっている	商店街関係者	販売量の動き	・エコカーの環境対応普及で少し販売の話が出ている。
		やや良くなっている	小売店	販売量と単価の動き	・販売数量は伸びていないが、低価格商品集中の傾向からは脱しつつあるように思う。
			スーパー	単価の動きとお客様の様子	—
			金融機関	お客様の様子	・春以降の受注については、不確定であり、先行き不安のあるお客が多い。
		変わらない	スーパー	来客数の動き	・昨年より来客数が減少している。
			自動車販売	来客数と販売量の動き	・前年対比（販売量）で20%落ち込んでいる。来客があっても、なかなか成約出来ない。（条件がきびしい。）
			道の駅	来客数の動き	・天候が悪く、来客が基本的に少ない。
			スナック	お客様の様子	・秋頃から、あまり変化はないようです。一月は、どうしても忘年会で、お金もエネルギーも使いはたしているの、出足が少ないようです。
			旅館	来客数の動きとお客様の様子	・新年会・総会等で飲食には動き有り、宿泊者数は減少している、寒波の影響も有り。
			旅行代理店	来客数の動き	・来店される人数にあまり変化はないように感じます。
	福祉施設		来客数の動き	・失業による資金貸付相談が減らない。	
	やや悪くなっている	ホテル	来客数の動き	—	
	やや悪くなっている	やや良くなっている	飲食店	来客数の動きとお客様の様子	・天候の悪さにより、市外、県外のお客様の来客が少ない様でした。（尚、10日までは順調でした。）
		変わらない	金融機関	お客様の様子	・蓄える方向がなく、現状維持又は個人貯金の減少が目立つ。
		やや悪くなっている	小売店	来客数と販売量の動き	—
			小売店	来客数、販売量の動きと競争相手の様子	・やはりお客様の動きが大きく少ないと思います。競争相手の価格破壊も目立ちます。
			小売店	単価の動きとお客様の様子	—
			小売店	単価の動き	—
			スーパー	販売量の動きとお客様の様子	—
			レストラン	来客数と単価の動き	・来客数、客単価いずれも少しずつ下げている。
美容室			来客数の動き	・気候（雪）、客足が延びている。	
悪くなっている		小売店	単価の動き	・大型店の進出により、1人あたりの単価が減少している。	
悪くなっている	変わらない	観光案内所	来客数と販売量の動き	・紅葉、栗きんとんシーズンが終わり市街地の人通りが少なくなっている。	
	やや悪くなっている	商店街関係者	販売量の動き	・冬物商戦が終了し、新学新入の商品に変わるが、消費が鈍化している。	

			レストラン	販売量の動き	—
			旅館	来客数と単価の動き	—
	悪くなっている		商店街関係者	来客数と販売量の動き	・紅葉のシーズンも終り栗きんとん人気も低下してきた。
			小売店	来客数、販売量の動きと競争相手の様子	—
			道の駅	来客数の動き	・12月から入込客が減少、1月は極端に減少。
			居酒屋	競争相手の様子	・新規OPENのライバル店。
			理容室	来客数の動き	—
			タクシー運転手	来客数、販売量、単価の動きとお客様、競争相手の様子	・お客様の減少。
雇用関連		やや良くなっている	やや良くなっている	労働相談所	求人数と求職者数の動き
	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数の動き	・求人は前年同期と比べ増加はしているが、一部業種にとどまっております、求人意欲の高まりは感じられない。
		変わらない	労働金庫	周辺企業の様子	—
			学校就職担当	求人数の動き	・来年度の採用予定は、国内での採用を減らす予定の所もあったが、他は今年と同程度のみこみ。
			学校就職担当	求人数の動き	・高卒者対象の求人が非常に少ないので、職を求める生徒にとっては大変厳しい状況である。
			自治体労働政策担当	雇用形態と周辺企業の様子	・主要企業では、仕事量は回復（増加）してきているが、利益につながっていない状況。雇用（求人）においてもパートが目立っている。
	—	やや悪くなっている	人材派遣会社	求人数と求職者数の動き	・各企業とも採用を絞り込む状況が続いており、今後も予想できない。（景気の不透明感が強い。） ・求職者は中高年が多く、なかには、10～15位応募しても決まらずという方もあり、深刻な問題である。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明	
家 計 動 向 関 連	良くなる	飲食店	・春から夏にかけて、暖かくなれば、人が動くのでは。	
		観光案内所	・新緑や花の咲く時期になり、GWの連休など観光客が増えて来る。	
	やや良くなる	小売店	—	
		道の駅	・地域内のお客様を増やすため。	
		スナック	・会社員の方の話を聞く限りでは、仕事は3月位まで、忙しいらしく残業している会社もあります。	
		旅館	・4月以降になれば人の動きもあり、しかし、昨年比となると不明。	
		旅行代理店	・気候があたたかくなれば、みんな外へ出かけようかという気になってくれるのではないかと思います。いちご狩りに行こうかとかいう感じになると思います。	
	変わらない	変わらない	小売店	・地方の今の流れでは、まだまだ変わらないと思います。
			小売店	・買い替えのガマンの限界にきつつあるように思う。ここで何かの起爆剤があれば消費は上向くと思う。
			小売店	—
自動車販売			・今までもこの状態ですので、この先よくなる材料がないように思います。	
ホテル			—	
金融機関			・少しでも良くなるよう期待をしていますが、消費の低迷や節約志向、また、政治の不安要素から変わらない気がします。	
美容室			—	
福祉施設			—	
タクシー運転手			・世の中の景気の低迷。	
やや悪くなる			やや悪くなる	小売店
	小売店	—		
	スーパー	・新年度をひかえ、他の事にお金が必要な為、食料品に対しては逆に買い控えがありそうです。		
	スーパー	—		
	スーパー	—		
	レストラン	・政府の対策が不十分で、良い方向へは進まないと思います。		
	レストラン	—		
	旅館	—		
	金融機関	・政治が安定しないことなどから景気は良くなるものと考えているため。		

	悪くなる	商店街関係者	・政治の停滞に加え、市議会議員選挙を控えているため、俗に選挙のある年は消費は伸びないと言われている。
		商店街関係者	・大型店にお客様が流れてしまい、集客が見込めない、景気対策ができていない。
		小売店	・地場産業の衰退。
		道の駅	—
		居酒屋	—
		理容室	—
	—	商店街関係者	・取引先の方々の年齢が上がっていますので、あまり車の利用度が下がります。
雇用関連	やや良くなる	職業安定所	・少しずつではあるが、正社員求人も増えている感がある。
	変わらない	学校就職担当	—
		学校就職担当	・景気が良くなるような話しは、周囲からまったく聞こえない。景気は上向きつつあるという報道があるが、あまり信じることができない。
		人材派遣会社	・各企業とも業績の改善が見られる一方、経費の削減（主として人件費）は、今後更に強くなってくると思われる。費用の面ではこうした状況下で、当分変化なしと思われる。
		自治体労働政策担当	・現在の国の政策から考えると、近いうちに景気が回復することは考えにくい。
	やや悪くなる	労働金庫	—
労働相談所		・世界的に原材料が高騰しつつあり、企業収益の圧迫要因になりつつある。 ・勤労者収入が伸びない。	